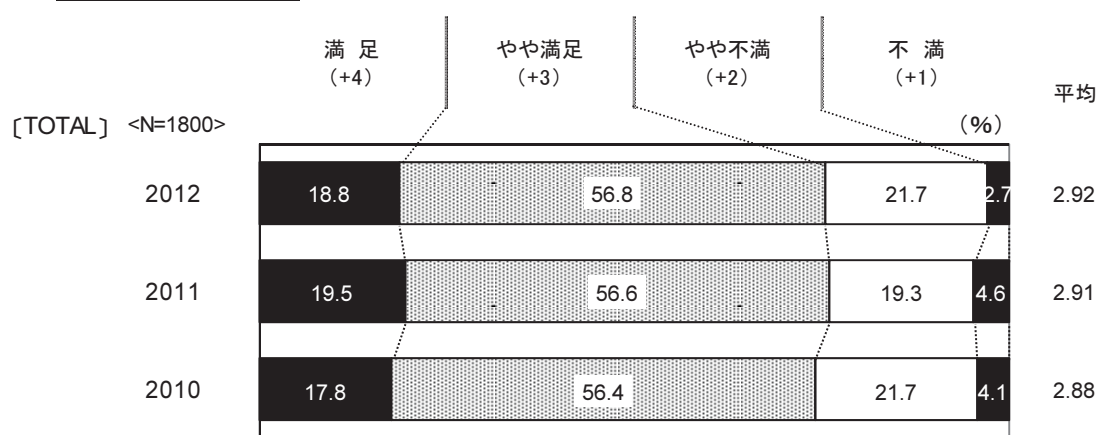


## V. 前年までの結果との比較

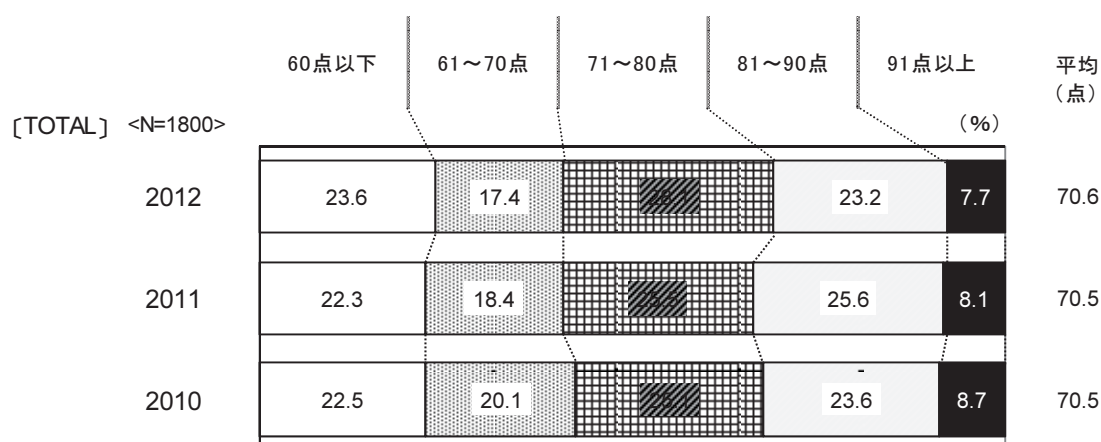
### 1. 都市生活者の生活全般における意識・実態

「生活満足度」「幸せ感・幸福感」「現在の生活水準」「1年前と比較しての生活」「2～3年後の生活」をTOTALでみると、「1年前と比較しての生活」に有意差がみられ、“良くなっている（良くなっている+やや良くなっている）”は2011年に比較して3ポイント増加、“悪くなっている（やや悪くなっている+悪くなっている）”は2010年に比較して4ポイント減少。

図V-1. 生活満足度



図V-2. 幸せ感・幸福感

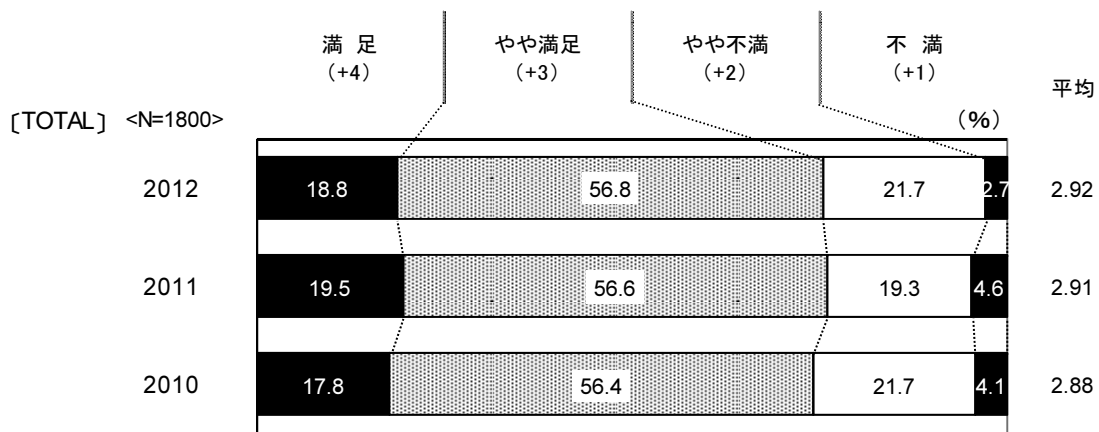


## V. 前年までの結果との比較

### 1. 都市生活者の生活全般における意識・実態

「生活満足度」「幸せ感・幸福感」「現在の生活水準」「1年前と比較しての生活」「2～3年後の生活」をTOTALでみると、「1年前と比較しての生活」に有意差がみられ、“良くなっている（良くなっている+やや良くなっている）”は2011年に比較して3ポイント増加、“悪くなっている（やや悪くなっている+悪くなっている）”は2010年に比較して4ポイント減少。

図V-1. 生活満足度



図V-2. 幸せ感・幸福感

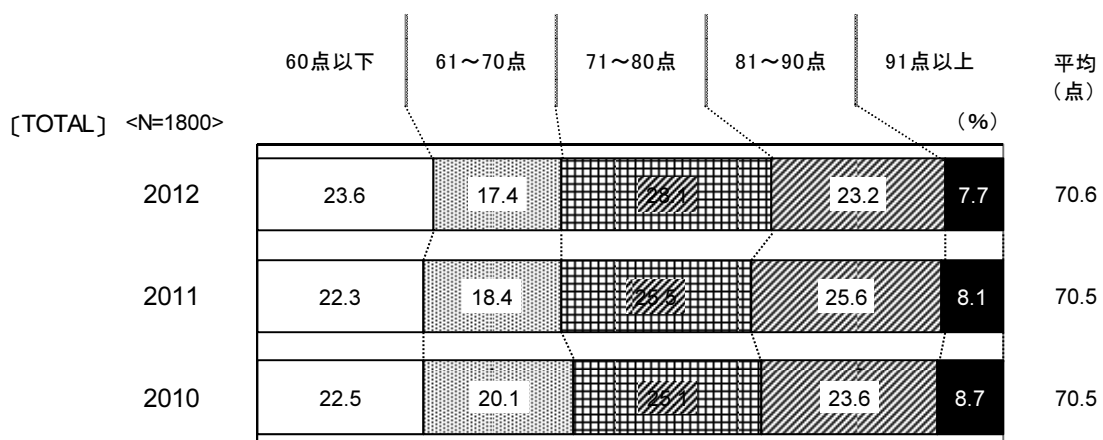


図 V-3. 現在の生活水準

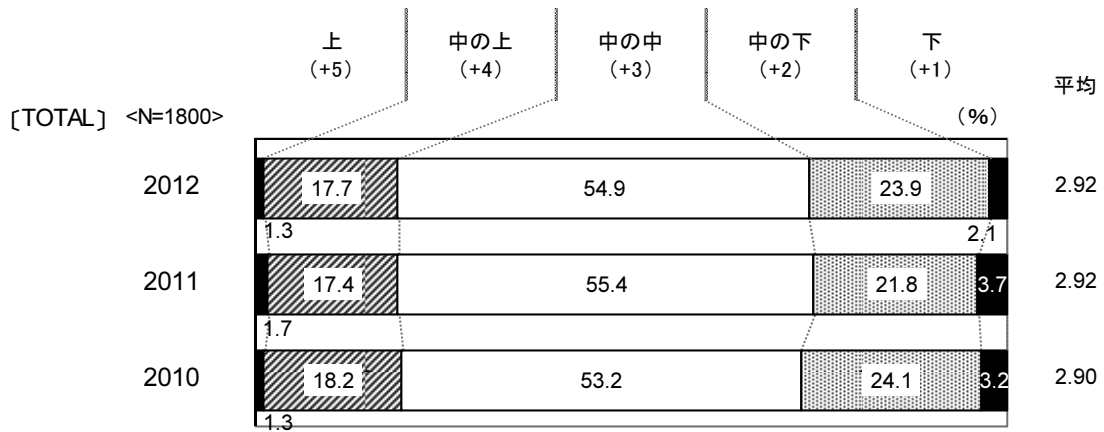


図 V-4. 1年前と比較しての生活

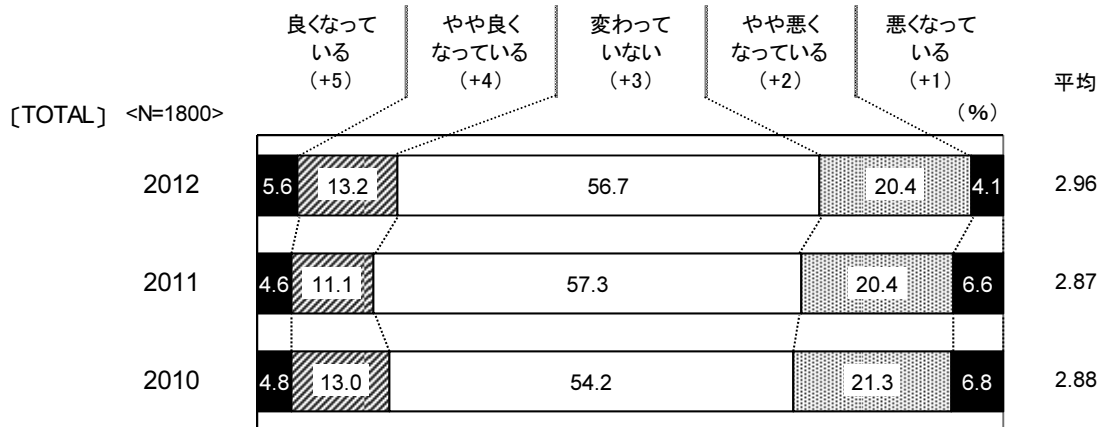
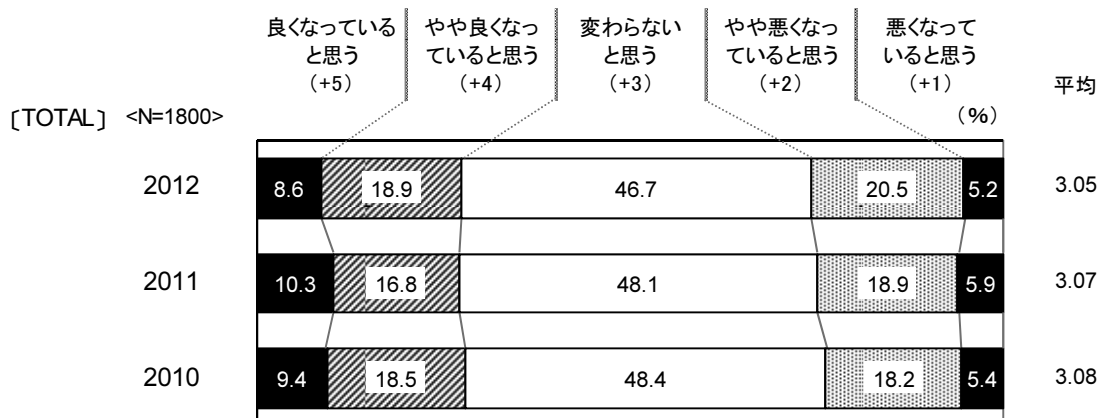


図 V-5. 2~3年後の生活



## 2. 都市生活者の生活分野別意識・実態

### (1) 分野別興味関心度・満足度

興味関心度で“ある（ある+ややある）”、満足度で“満足（満足+やや満足）”を TOTAL でみると、各分野とも 2011 年、2010 年との間に有意差はみられない。

表 V-1. 分野別興味関心度、満足度 [TOTAL <N=1,800>]

《興味関心度》

	衣	食	住	消費	仕事	遊び	健康	医療	人づきあい	学び
2012	71.1	86.6	72.1	75.6	75.2	86.8	78.9	65.6	79.4	70.8
2011	68.3	86.1	71.4	73.4	76.7	87.9	78.9	-	78.1	70.0
2010	69.6	85.2	72.0	73.8	76.9	86.5	78.3	-	79.2	69.4

《満足度》

2012	77.7	88.7	71.4	69.9	61.6	68.2	65.8	72.6	82.6	64.9
2011	77.3	87.5	72.4	70.3	60.5	66.5	63.6	-	81.4	62.8
2010	76.6	87.7	71.5	69.6	59.6	66.7	65.1	-	81.6	63.6

### (2) 「食」について

2011 年との間に有意差がみられるのは下記 3 項目で、「防災・災害用の食品を備えている」は 4 ポイント増加、「1 日に 1 回はお米を食べている」「夕食は必ず食べるようにしている」の 2 項目は 2011 年よりそれぞれ 4 ポイント、3 ポイント減少。

表 V-2. 食に対する意識・態度

	[TOTAL <N=1,800>]	2012	2011	2010
↗	防災・災害用の食品を備えている	19.4	15.8	-
↘	1 日に 1 回はお米を食べている	74.2	77.7	79.0
	夕食は必ず食べるようにしている	73.1	76.4	78.5
	朝食は必ず食べるようにしている	64.2	66.5	67.7
↘	身近にいつもお菓子類がある	25.2	27.7	29.6
	最近、和食メニューを多くするようにしている	21.2	20.9	24.8

(注) 2010 年の数値に何もマークがない項目は、2011 年との間に信頼度 95% で有意差があることを示します。2010 年の数値が□で囲んである場合は、2012 年と 2010 年との間に信頼度 95% で有意差があることを示します。

表左の ↗ は、2011 年(2010 年)より増加、↘ は 2011 年(2010 年)より減少していることを示します。

## (3) 「住」について

2011年に比較して「都心や都市部に住みたい」が3ポイント増加、「近くに緑や公園のあるところに住みたい」「閑静な住宅地に住みたい」がそれぞれ5ポイント、3ポイント減少。

2010年と比較すると、「自然が豊かなところに住みたい」「海に近いところに住みたい」がそれぞれ減少。

表V-3. 住みたいと思う住環境

(%)

[TOTAL <N=1,800>]		2012	2011	2010
↗	都心や都市部に住みたい	26.8	23.8	23.7
↘	近くに緑や公園のあるところに住みたい	45.1	49.9	47.6
	閑静な住宅地に住みたい	23.5	26.6	25.6
↘	自然が豊かなところに住みたい	36.8	39.7	41.3
	海に近いところに住みたい	15.2	17.6	19.8

## (4) 「買い物・消費」について

## [買い物に対する意識・態度]

2011年に比較して増加しているのは、「多少高くても長く使えるものを買う」、反対に減少しているのは「一流メーカー・一流ブランドの商品は信頼できる」「バーゲン品を買うことが多い」の2項目。

表V-4. 買い物に対する意識・態度

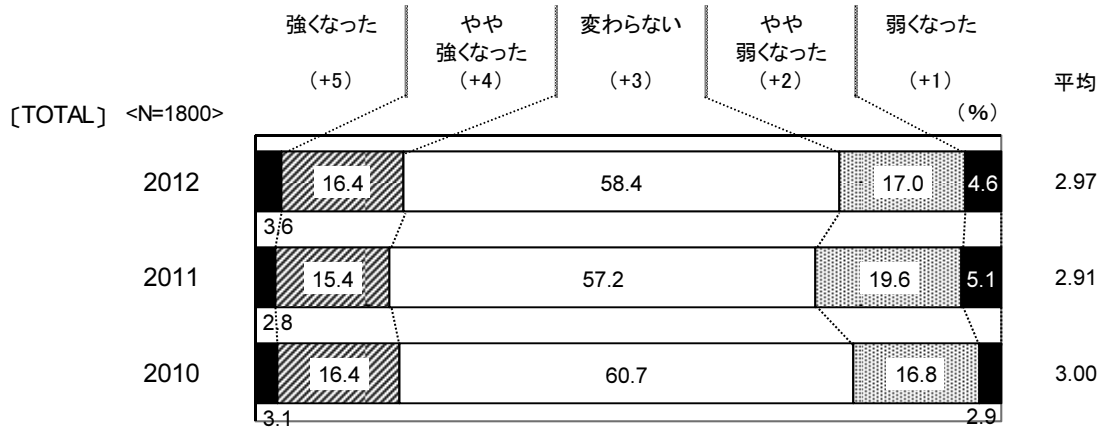
(%)

[TOTAL <N=1,800>]		2012	2011	2010
↗	多少高くても長く使えるものを買う	29.2	25.7	-
↘	一流メーカー・一流ブランドの商品は信頼できる	24.2	27.6	25.0
	バーゲン品を買うことが多い	22.7	25.9	27.2
↗	新しい商品が出ると試に買ってみることがある	28.7	28.0	25.7
	デザインよりも機能を重視して買うことが多い	21.8	23.7	18.0
↘	何か買う時は現金を使うことが多い	49.1	50.1	53.8
	値段が安ければ無名メーカーのものでも買う	41.9	43.9	46.3
	買い物にはチラシを参考にする	33.2	34.7	38.2
	品質管理・品質情報の提供がしっかりした店で買い物をすることが多い	18.8	19.6	24.2

〔モノやレジャーにお金を費やしたい意欲〕

“弱くなった（やや弱くなった+弱くなった）”で2011年との間に有意差がみられ、2011年に比較して2012年では3ポイント減少。

図V-6. モノやレジャーにお金を費やしたい意欲



〔消費行動の変化〕

“増えた（増えた+やや増えた）”でみると、2011年より増加しているのが、「インターネットショッピングの利用」、反対に減少しているのが「社会や地域の支援になる買い物」。

2010年と比較すると、「値段を見て買うのをやめること」「買い替えるより修理して使うこと」「ディスカウントストアを利用すること」の3項目でいずれも減少。

表V-5. 消費行動の変化

(%)

〔TOTAL <N=1,800>〕		2012	2011	2010
↑	インターネットショッピングを利用することが… “増えた”	24.2	21.1	20.1
↓	社会や地域の支援になる買い物をすることが… “増えた”	14.7	20.4	-
	値段を見て買うのをやめることが… “増えた”	35.6	36.1	39.4
↓	買い替えるより修理して使うことが… “増えた”	18.8	20.2	21.5
	ディスカウントストアを利用することが… “増えた”	16.8	18.3	19.6
↑	いろいろな店の値段を比較して買うことが… “減った”	8.5	6.9	6.3

〔消費行動に影響を及ぼす要因〕

2011年に比較して増加しているのが「インターネットの普及」の1項目、反対に減少しているのが、「景気・株価」「東日本大震災の大規模災害」「原子力発電・放射能問題」「雇用・就職環境」「電力不足」「資産価値の変化」の6項目。

表V-6. 消費行動に影響を及ぼす要因

(%)

[TOTAL <N=1,800>]		2012	2011	2010
↑	インターネットの普及	16.8	13.0	10.6
	景気・株価	14.6	23.4	26.4
	東日本大震災の大規模災害	10.0	19.5	-
↓	原子力発電・放射能問題	7.1	13.6	-
	雇用・就職環境	7.0	9.0	8.2
	電力不足	3.3	6.9	-
	資産価値の変化	2.3	4.1	3.3
↓	将来の生活	21.6	22.1	25.2
	ローンの支払い	6.4	7.2	9.7
↓	特に影響しているものはない	14.6	14.4	20.2

## (5) 「健康・美容」について

## 〔健康・美容に対する意識・態度〕

2011年に比較して増加しているのが、「できるだけ薬はのまないようにしている」「太らないように気をつけている」「塩分・糖分のとりすぎに注意している」「定期的に健康診断を受けている」「できるだけ腹をたてたりイライラしないようにしている」「週に何日かは休肝日を作っている」の6項目。

表V-7. 健康・美容に対する意識・態度

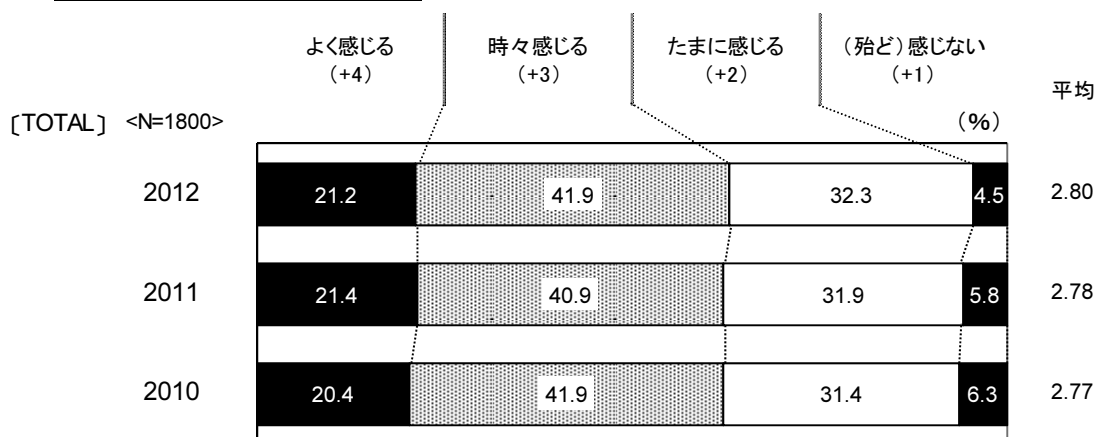
(%)

[TOTAL <N=1,800>]		2012	2011	2010
↑	できるだけ薬はのまないようにしている	46.5	41.3	47.1
	太らないように気をつけている	43.3	39.6	39.4
	塩分・糖分のとりすぎに注意している	31.3	25.8	24.9
	定期的に健康診断を受けている	29.8	24.6	24.4
	できるだけ腹をたてたりイライラしないようにしている	26.2	23.3	24.3
	週に何日かは休肝日を作っている	11.1	8.3	7.7
↑	カロリーの摂り過ぎに気をつけた食生活をしている	30.7	28.2	27.7
	少しでも体調が悪いと医者に行くようにしている	17.1	16.8	13.8
	少しでも体調が悪いと市販の薬を飲むことが多い	16.8	16.7	12.5
	特定保健用食品(トクホ)を、積極的に買うようにしている	5.8	4.6	3.7
↓	食事は好みよりも栄養バランスを重視している	11.0	12.1	13.6
	たばこの吸う本数を減らしている	5.5	6.2	7.6

〔ストレスを感じる程度〕

“（殆ど）感じない”は、2011年との間に有意差はみられないが、2010年との間には有意差がみられ、2010年に比較して2012年では2ポイント減少。

図V-7. ストレスを感じる程度



〔ストレスの原因や心配事〕

2011年より増加しているのは、「老後や将来の不安」「日常の多忙さ」「友人との人間関係」「食事バランスの乱れ」「事故」の5項目、反対に減少しているのは「家庭内の人間関係」「放射能問題」「原子力発電」「就職難」の4項目。

表V-8. ストレスの原因や心配事

		[TOTAL <N=1,800>]	2012	2011	2010
↑	老後や将来の不安		35.8	30.9	35.2
	日常の多忙さ		23.8	19.5	20.2
	友人との人間関係		15.8	12.6	10.6
	食事バランスの乱れ		7.9	5.9	8.1
	事故		4.2	2.8	-
↓	家庭内の人間関係		18.0	21.6	14.6
	放射能問題		13.9	20.6	-
	原子力発電		11.2	13.5	-
	就職難		6.4	8.1	10.2
↑	職場・学校・地域の人間関係		32.5	30.6	26.4
	他人の非常識な言動		22.6	21.6	17.0
	騒音・悪臭などの公害		6.9	5.8	5.0
↓	自分の健康		31.7	29.9	37.6
	家族の健康や生活上の問題		27.2	25.9	31.7
	子どもの保育や教育		13.8	14.2	17.4
	失業や倒産		4.8	6.2	8.4

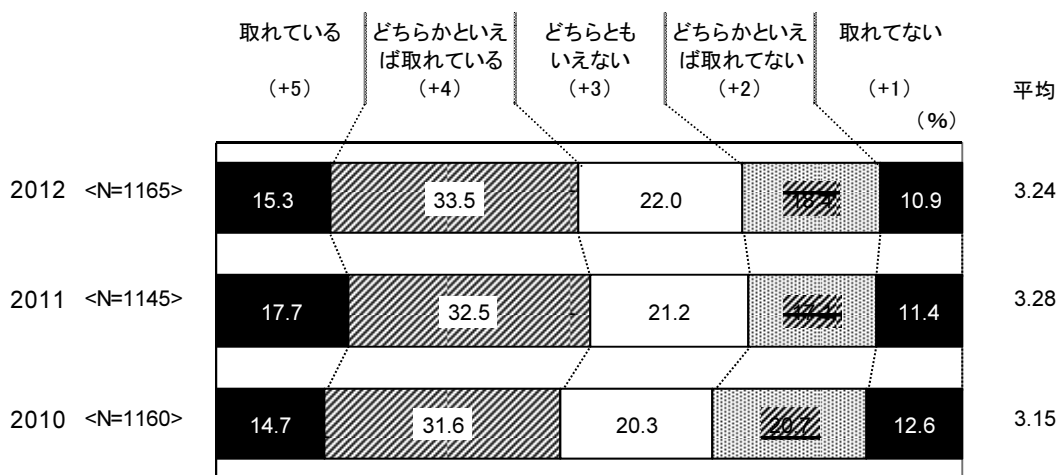


(6) 「仕事・家庭」について

〔仕事・家庭・余暇のバランス〕

2011年との間に有意差はみられないが、2010年の“取れていないと思う（どちらかといえば取れていない+取れていない）”との間には有意差がみられ、2010年に比較して2012年では4ポイント減少。

図V-8. 仕事・家庭・余暇のバランス

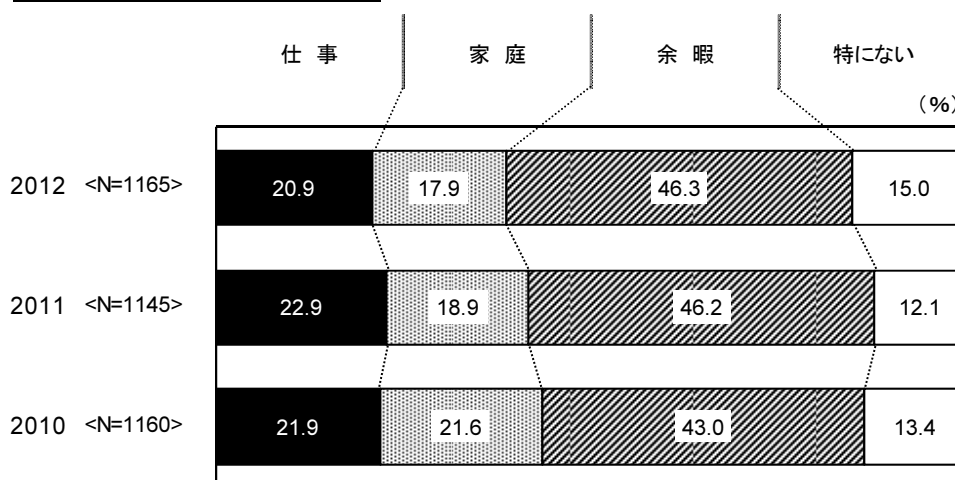


〔今後充実させたいもの〕

2010年との間には、“家庭を充実させたい”で有意差がみられ、2012年は2010年より4ポイント減少。

また、2011年との間には“特にない”でも有意差がみられ、2012年は2011年より3ポイント増加。

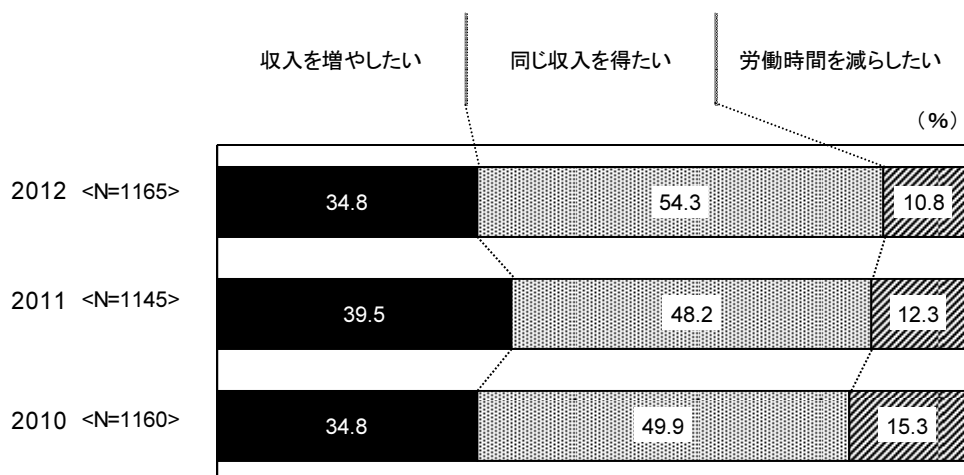
図V-9. 今後充実させたいもの



〔労働時間と収入〕

2011年との間には、“労働時間を増やしても収入を増やしたい”“今と同じ時間働き、今と同じ収入を得たい”で有意差がみられ、2011年より“労働時間を増やしても収入を増やしたい”が5ポイント減少、“今と同じ時間働き、今と同じ収入を得たい”が6ポイント増加。

図V-10. 労働時間と収入



〔家庭に対する意識・考え方〕

2011年に比較して、「家族と洋服などのショッピングに行くことがある」が増加、「家族だんらんの時間を持つようにしている」「家庭生活は子ども中心である」が減少。

表V-9. 家庭に対する意識・考え方

(%)

[TOTAL <N=1,800>]		2012	2011	2010
↑	家族と洋服などのショッピングに行くことがある	47.6	43.7	43.3
↓	家族だんらんの時間を持つようにしている	29.8	33.7	36.2
	家庭生活は子ども中心である	30.2	33.4	32.2
↓	家族揃った食卓では、楽しい雰囲気で食べることが多い	44.1	45.1	47.8
	夫婦で共通した趣味を持っている	12.9	13.6	15.2
	子どもは家事をよく手伝っている	11.4	13.5	13.6

〔家庭についての考え〕

2011年との間に有意差のみられる項目は1つもないが、2010年との間には、「家事は家族で分担するべきだと思う」「親は子どものために財産や資産を残す必要はないと思う」「男性は外で収入を得るために働き、女性は家庭を守るのがよいと思う」の3項目で有意差がみられ、3項目とも2010年より減少。

表V-10. 家庭についての考え

(%)

		〔TOTAL <N=1,800>〕		
		2012	2011	2010
✓	家事は家族で分担するべきだと思う	39.2	40.9	42.9
	親は子どものために財産や資産を残す必要はないと思う	18.3	19.2	23.2
	男性は外で収入を得るために働き、女性は家庭を守るのがよいと思う	14.9	16.6	18.3

## 〔子育て・子どもの教育に対する考え方〕

トータルポジティブ（そう思う＋ややそう思う）でみると、2011年に比較して有意差がみられるのは「教育費が家計の負担になっている」の1項目で、2012年では4ポイント増加。

表V-11. 子育て・子どもの教育に対する考え方(そう思う＋ややそう思う)

(%)

		〔TOTAL <N=1,800>〕		
		2012	2011	2010
↑	教育費が家計の負担になっている	65.0	61.4	61.3
✓	子どもがどのような友達と付き合っているか知りたい	86.6	87.8	89.0
	奨学金制度を充実させてほしい	81.6	82.8	85.1
	子どもは3人以上欲しい	35.8	37.0	40.2

## 〔今後時間をさきたいこと〕

2011年との間に有意差がみられるのは「テレビ・DVD鑑賞」の1項目で、2011年より3ポイント増加。

表V-12. 今後時間をさきたいこと

(%)

		〔TOTAL <N=1,800>〕		
		2012	2011	2010
↑	テレビ・DVD鑑賞	17.2	14.0	11.4
↑	友人・知人との交際	44.8	42.8	33.1
	買い物・ショッピング	19.7	19.0	14.7
	インターネット	10.4	9.8	7.2
	ペットの世話・散歩	8.7	8.2	6.3
	ボランティア・市民活動	6.2	5.2	3.2
	地域のお世話・地域活動	5.4	6.0	3.9
	クラブ活動	3.6	2.7	2.1
	仕事	13.8	13.9	17.6
✓	学校・勉強	8.9	10.8	11.2
	家事	8.6	7.9	10.7

## (7) 「情報」について

## 〔情報に対する意識・態度〕

2011年との間に有意差はみられないが、2010年との間でみると5項目に有意差がみられ、「わからないことがあるとすぐインターネットで調べる」「わからないことがあると自分で調べる」「いろいろな情報はインターネットで知ることが多い」の3項目は2010年より増加、反対に「いろいろな情報は新聞・雑誌で知ることが多い」「わからないことがあるとすぐに人にきく」の2項目は2010年より減少。

表V-13. 情報に対する意識・態度

(%)

〔TOTAL <N=1,800>〕		2012	2011	2010
↗	わからないことがあるとすぐインターネットで調べる	51.4	49.7	45.2
	わからないことがあると自分で調べる	49.1	48.0	44.4
	いろいろな情報はインターネットで知ることが多い	37.0	35.4	31.9
↘	いろいろな情報は新聞・雑誌で知ることが多い	26.6	28.3	30.3
	わからないことがあるとすぐに人にきく	23.9	26.4	28.3

## 〔関心のある情報分野〕

2011年との間に有意差がみられ、2011年より増加しているのが「政治」、反対に減少しているのが「環境・エコ」のそれぞれ1項目。

表V-14. 関心のある情報分野

(%)

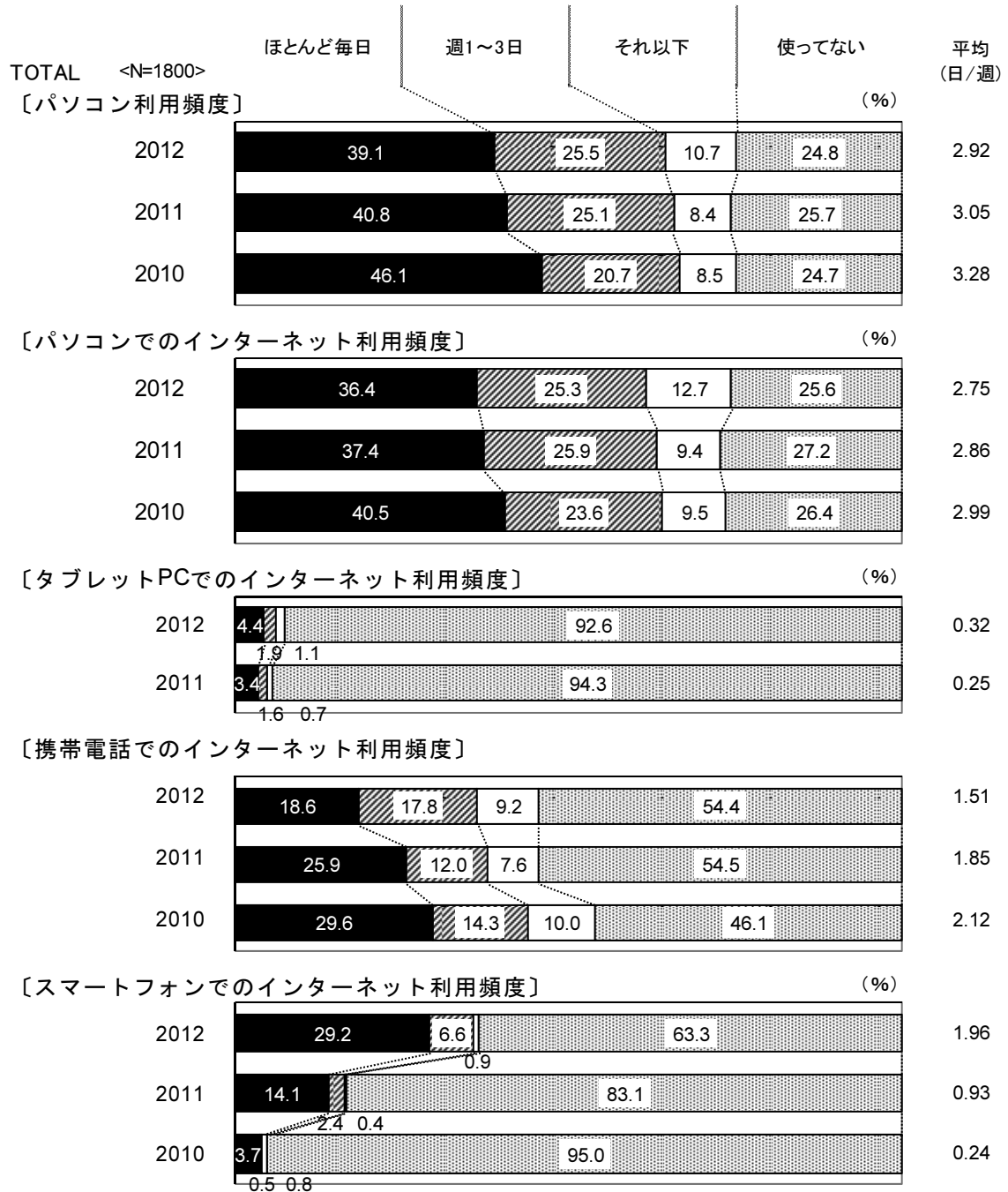
〔TOTAL <N=1,800>〕		2012	2011	2010
↗	政治	38.7	34.2	37.5
↘	環境・エコ	14.2	18.1	17.5
↘	趣味	35.0	36.7	39.5
	美容	17.2	19.2	21.3

〔情報機器別プライベートでの利用状況〕

「パソコンの利用頻度」は、2010年と比較して「ほとんど毎日」が7ポイント減少、「週1～3日」が5ポイント増加。

また、「インターネットの利用頻度」を2010年と比較すると、「パソコン」で4ポイント、「携帯電話」で11ポイントそれぞれ減少しているのに対し、「スマートフォン」では26ポイント増加。

図V-11. 情報機器別利用状況



(注) 「タブレットPC」は、2011年より聴取。

### 3. 都市生活者のコミュニティ意識と実態

#### 〔人づきあいに対する意識・態度〕

2011年より増加しているのが、「声をかければ必ず付きあってくれる友人がいる」「仕事関係以外の人づきあいをよくしている」「近所に親密なつきあいをする人がいる」の3項目、反対に減少しているのが、「趣味やスポーツの仲間がいる」の1項目。

表V-15. 人づきあいに対する意識・態度 (％)

〔TOTAL <N=1,800>〕		2012	2011	2010
↑	声をかければ必ず付きあってくれる友人がいる	44.2	39.8	39.4
	仕事関係以外の人づきあいをよくしている	30.4	27.2	32.9
	近所に親密なつきあいをする人がいる	20.1	15.5	16.1
↓	趣味やスポーツの仲間がいる	38.7	42.3	40.5
↓	親戚づきあいは必要だと思う	48.2	49.7	54.8
	つきあう友人の数が減っている	29.6	30.5	33.1
	同窓会はできるだけ出席するようにしている	25.3	24.8	28.4
	いろいろな人と知り合いになりたい	23.9	25.9	28.3
	広く浅く大勢の人とおつきあいをしたい	12.3	12.2	15.1

#### 〔交流がある人との関係やつながり〕

2011年との間に有意差のみられる項目はないが、2010年との間でみると、「町内会・自治会活動」が増加、「子育てサークル・幼稚園・学校が一緒など子どもを通じた関係（ママ友など）」が減少。

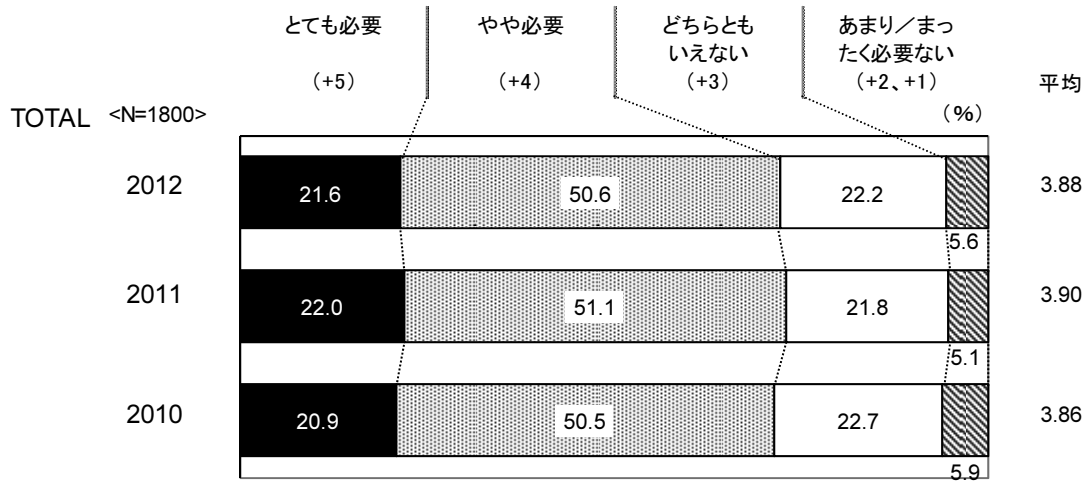
表V-16. 交流がある人との関係やつながり (％)

〔TOTAL <N=1,800>〕		2012	2011	2010
↑	町内会・自治会活動	28.8	28.7	25.3
↓	子育てサークル・幼稚園・学校が一緒など子どもを通じた関係	25.4	25.3	28.8

〔地域の人々との交流の必要度〕

地域の人々との交流の必要度は、2010年、2011年との間に有意差はみられない。

図 V-12. 地域の人々との交流の必要度



〔参加しているもの〕

2010年と比較して、「スポーツやさまざまな趣味の集まり」「PTA など子どもを通じた集まり」の2項目が減少。

表 V-17. 参加しているもの

		〔TOTAL <N=1,800>〕			(%)
		2012	2011	2010	
↓	スポーツやさまざまな趣味の集まり	26.8	26.2	30.7	
	PTA など子どもを通じた集まり	13.8	14.8	16.4	

## 〔交流が必要だと思う理由・ワケ／うまくいっているもの／もっと機能してほしいもの〕

交流が必要だと思う理由・ワケをみると、2011年より減少しているのは、「災害時の対応」「子どもを見守る地域の目としての役割」の2項目。

表V-18. 交流が必要だと思う理由・ワケ (％)

〔TOTAL <N=1,800>〕		2012	2011	2010
✓	災害時の対応	52.1	56.3	58.1
	子どもを見守る地域の目としての役割	47.8	52.9	55.9
✓	高齢者に対するサポート	38.3	39.6	50.3
	住民同士の親睦・交流	35.3	37.1	43.9
	地域や町の美化	30.7	32.5	40.6
	伝統文化・お祭りなどの継承や保存	30.1	31.5	38.3
	子育てに対するサポート(育児の悩み相談・子どもを預けるなど)	29.8	29.8	39.5
	リサイクル活動やゴミの減量など環境対策	24.6	26.1	33.5
	スポーツ・趣味	15.6	16.7	25.5
↖	生涯学習など学習機会の獲得	12.6	13.5	22.4
	特にない	14.5	12.8	11.8

交流によりうまくいっているものは、「地域の防犯・治安の向上」「伝統文化・お祭りなどの継承や保存」「住民同士の親睦・交流」「地域や町の美化」「いざという時の助け合い」「リサイクル活動やゴミの減量など環境対策」「生涯学習など学習機会の獲得」の7項目で2011年より減少。

表V-19. 交流により、うまくいっているもの (％)

〔TOTAL <N=1,800>〕		2012	2011	2010
✓	地域の防犯・治安の向上	32.4	35.7	30.8
	伝統文化・お祭りなどの継承や保存	28.3	33.3	38.8
	住民同士の親睦・交流	27.7	31.4	32.2
	地域や町の美化	25.9	29.9	32.6
	いざという時の助け合い	24.9	28.0	22.1
	リサイクル活動やゴミの減量など環境対策	22.7	25.8	29.6
	生涯学習など学習機会の獲得	10.2	13.5	18.2
✓	スポーツ・趣味	18.3	20.5	26.7
	災害時の対応	16.4	18.6	19.1
	子育てに対するサポート(育児の悩み相談・子どもを預けるなど)	15.9	17.2	18.4
↖	特にない	28.2	23.8	25.0



交流によりもっと機能してほしいものは、「子育てに対するサポート（育児の悩み相談・子どもを預けるなど）」「住民同士の親睦・交流」「生涯学習など学習機会の獲得」「スポーツ・趣味」の4項目で2011年より減少。

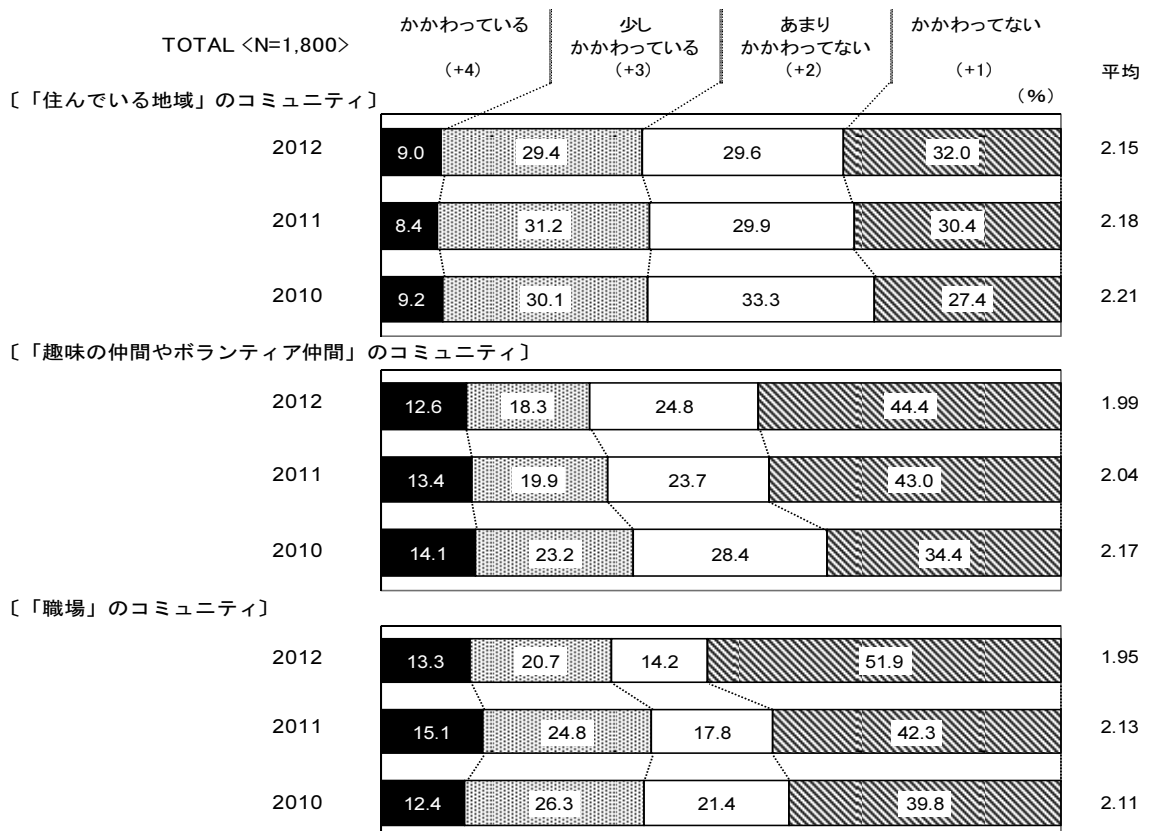
表V-20. 交流により、もっと機能してほしいもの (％)

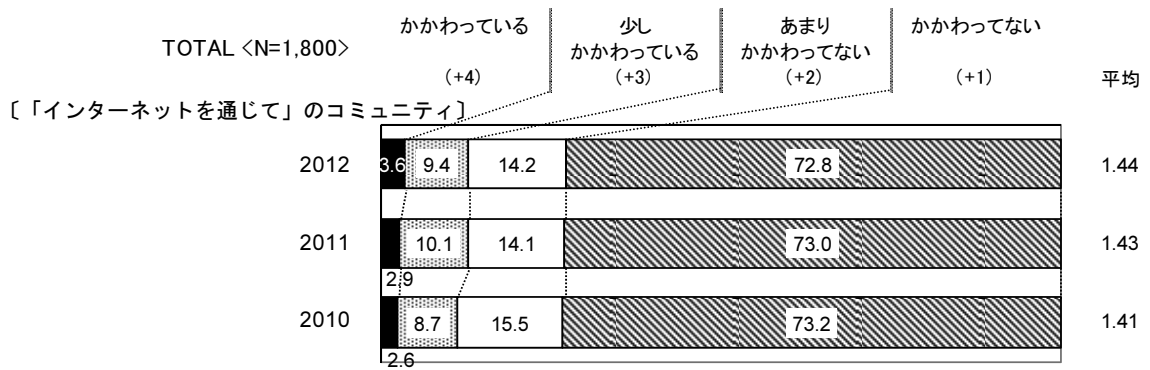
[TOTAL <N=1,800>]		2012	2011	2010
↓	子育てに対するサポート(育児の悩み相談・子どもを預けるなど)	23.8	27.0	29.6
	住民同士の親睦・交流	16.9	20.5	18.8
	生涯学習など学習機会の獲得	16.1	19.4	22.7
	スポーツ・趣味	14.2	17.1	18.1
↑	災害時の対応	41.6	43.8	35.0
	地域の防犯・治安の向上	33.6	33.9	29.1
↓	子どもを見守る地域の目としての役割	28.4	30.8	31.8
	リサイクル活動やゴミの減量など環境対策	19.5	21.9	23.9
↑	特にない	26.2	23.0	27.1

〔コミュニティ別かかわり度合い〕

トータルポジティブ（かかっている＋ややかかっている）でみると、「趣味やボランティア仲間」では2012年と2010年との間に、「職場」では2012年と2011年との間に有意差がみられ、「趣味やボランティア仲間」「職場」とも2012年では減少。

図V-13. コミュニティ別かかわり度合い

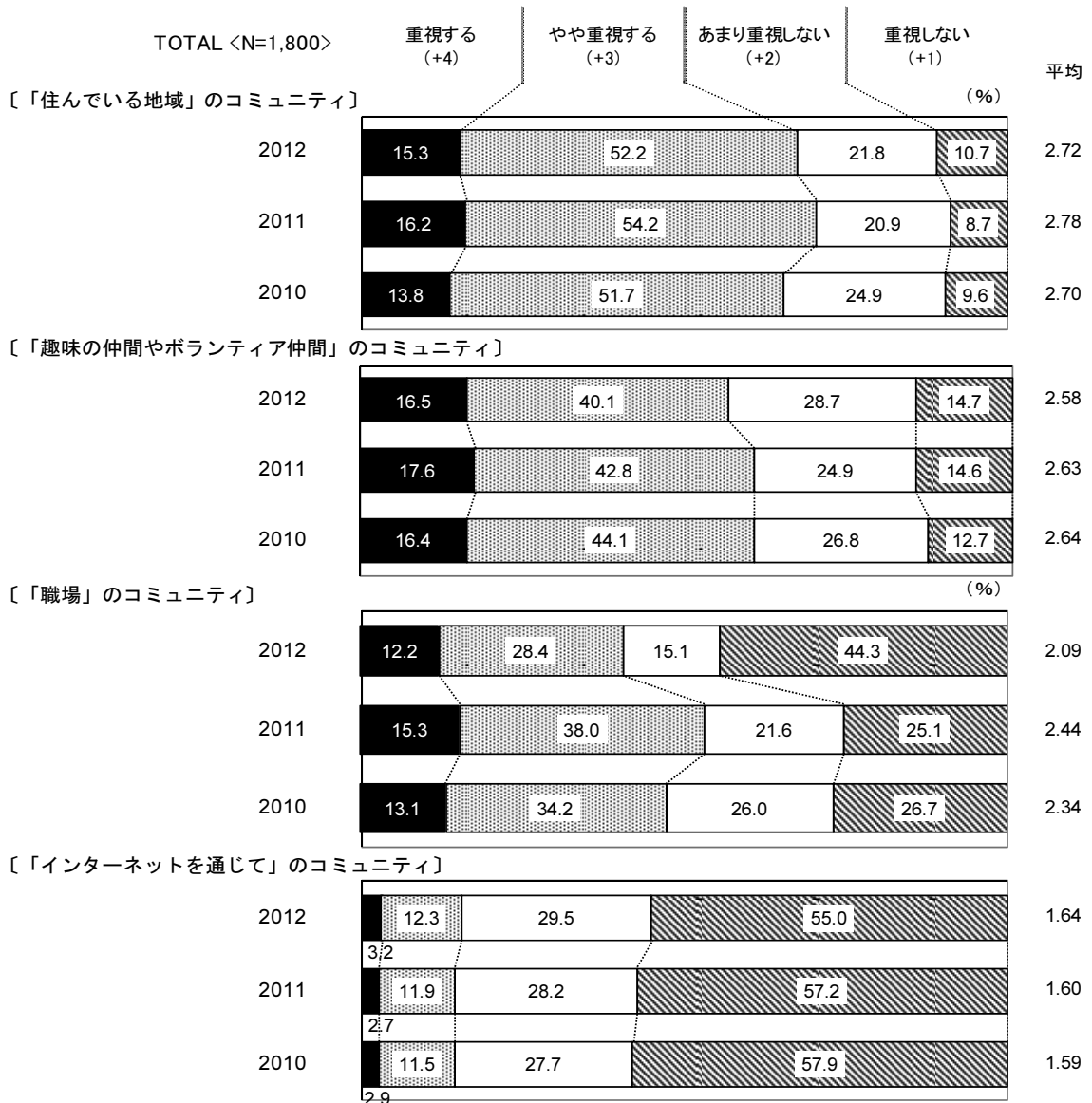




〔コミュニティ別今後の重視度〕

トータルポジティブ（重視する+やや重視する）でみると、2012年と2011年との間には「趣味の仲間やボランティア仲間」と「職場」のコミュニティで有意差がみられ、「趣味の仲間やボランティア仲間」「職場」のコミュニティとも2012年では減少。

図V-14. コミュニティ別重視度



## 〔大切に思っている人〕

2011年との間に有意差はみられないが、2010年との間には、「親」「学校や学生時代の友人・知人」「親戚」の3項目で有意差がみられ、3項目とも2010年より減少。

表V-21. 大切に思っている人

(%)

		〔TOTAL <N=1,800>〕		
		2012	2011	2010
↓	親	75.6	77.7	78.7
	学校や学生時代の友人・知人	56.4	54.9	60.3
	親戚	45.4	47.2	48.7

## 〔今後関係を深めたいと思っている人〕

(TOTAL でみて、2011年、2010年との間に有意差のみられる項目は1つもなし)

## 〔よりどころ〕

2011年との間に有意差はみられないが、2010年との間には「友人(幼なじみを除く)」「兄弟・姉妹」「趣味・スポーツの集まり」の3項目で有意差がみられ、2010年と比較して、「友人(幼なじみを除く)」は増加、「兄弟・姉妹」「趣味・スポーツの集まり」は減少。

表V-22. よりどころ

(%)

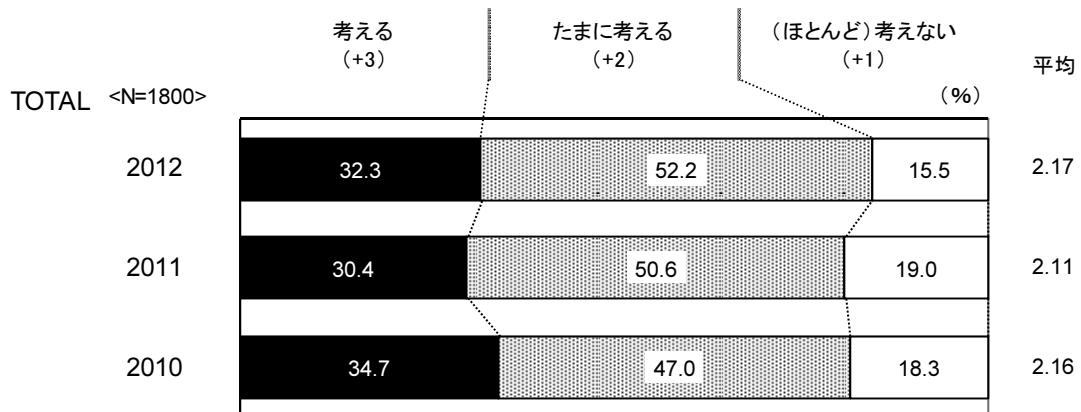
		〔TOTAL <N=1,800>〕		
		2012	2011	2010
↑	友人(幼なじみを除く)	53.8	53.6	50.2
↓	兄弟・姉妹	34.4	34.8	38.9
	趣味・スポーツの集まり	18.5	18.0	24.2

## 4. 都市生活者と老後

### 〔老後のことを考える程度〕

“考える+たまに考える”をTOTALでみると、2012年と2011年との間に有意差がみられ、2012年は2011年より4ポイント増加。

図V-15. 老後のことを考える程度



### 〔老後にしたいこと〕

2011年に比較して、「夫婦2人の暮らしを、のんびり過ごしたい」「運動・スポーツをしたい」の2項目で減少、2010年に比較して「絵画・陶芸など芸術方面の趣味をやりたい」「今の仕事を続けたい」の2項目で増加。

表V-23. 老後にしたいこと

		(%)		
		2012	2011	2010
↓	夫婦2人の暮らしを、のんびり過ごしたい	43.9	47.3	46.0
	運動・スポーツをしたい	27.2	30.3	29.4
↑	絵画・陶芸など芸術方面の趣味をやりたい	14.9	13.6	12.4
	今の仕事を続けたい	11.6	10.4	8.4
		<N= 1,661	1,660	1,660 >

〔老後のためにしていること・心がけていること〕

2011年との間に有意差はみられないが、2010年との間には、「貯金・蓄財をする」「良好な家族関係を築く」「生きがいとしての仕事を持つ」の3項目で有意差がみられ、2010年と比較して3項目とも減少。

表V-24. 老後のためにしていること・心がけていること (%)

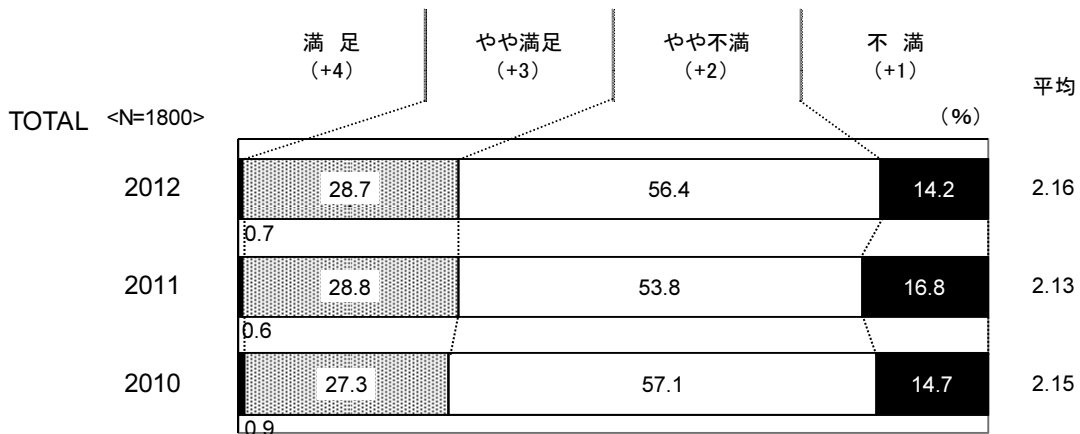
		2012	2011	2010
↓	貯金・蓄財をする	36.4	35.1	40.2
	良好な家族関係を築く	33.6	35.5	37.5
	生きがいとしての仕事を持つ	20.0	20.4	22.8
		<N= 1,661	1,660	1,660 >

## 5. 都市生活者の社会意識と実態

〔現在の社会満足度〕

2011年と比較して、“不満”に有意差がみられ、2012年は2011年より3ポイント減少。

図V-16. 現在の社会満足度



〔今の社会についての感じ〕

トータルポジティブ(そう思う+ややそう思う)でみると、2011年との間に有意差はみられないが、2010年との間には、「今の社会は、格差が広がっている」「今の社会は、人に対する気づかいが希薄になっている」「今の社会は、時間に追われる多忙な社会になっている」「今の社会は、老いるのがますます辛くなっている」「今の社会は、弱者が報われなくなっている」「今の社会は、安全や安心にお金をかけるようになっていく」「今の社会は、お金がすべての世の中になっている」「今の社会は、個々人の個性が失われている」の8項目で有意差がみられ、8項目とも2010年より減少。

表V-25. 今の社会についての感じ(そう思う+ややそう思う) (%)

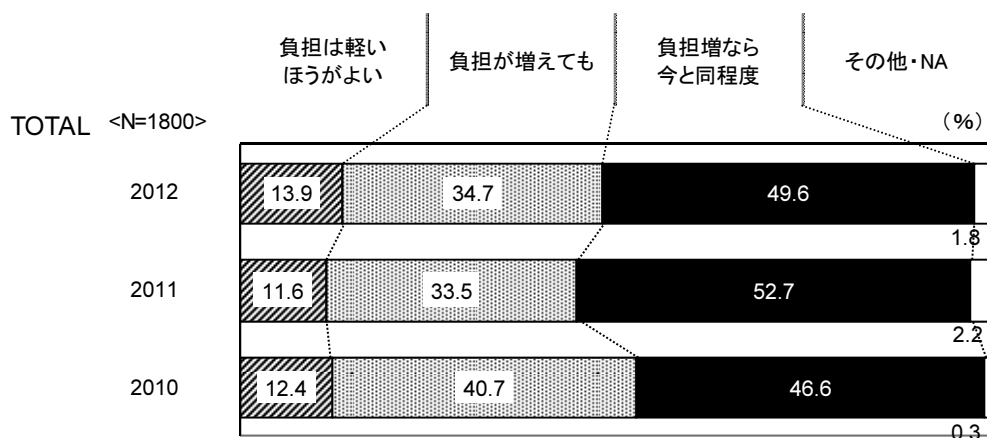
[TOTAL <N=1,800>]		2012	2011	2010
↓	今の社会は格差が広がっている	84.8	85.1	87.8
	今の社会は、人に対する気づかいが希薄になっている	79.0	77.0	85.4
	今の社会は、時間に追われる多忙な社会になっている	77.3	76.8	81.2
	今の社会は、老いるのがますます辛くなっている	76.7	76.3	80.4
	今の社会は、弱者が報われなくなっている	63.3	66.3	71.2
	今の社会は、安全や安心にお金をかけるようになっている	62.5	64.6	66.8
	今の社会は、お金がすべての世の中になっている	61.3	63.8	68.7
	今の社会は、個々人の個性が失われている	47.9	50.2	53.9

〔社会福祉・年金と税負担〕

2012年と2011年との間には“社会福祉や年金の水準が多少低下しても、税金などの負担は軽いほうがよい”に有意差がみられ、2011年より2ポイント増加。

また、2010年との間には“税金などの負担が多少増えても、社会福祉や年金の等の水準をあげたほうがよい”で有意差がみられ、2012年は2010年より6ポイント減少。

図V-17. 社会福祉・年金と税負担



〔近未来の社会〕

“なると思う”でみると、2011年に比較して増加している項目は1つもなく、反対に減少しているのが、「地球温暖化など環境問題がいつそう深刻化した社会」「いつでも・どこでも世界とつながる情報化社会」「不況や失業が慢性化した社会」「循環型社会」「自然や環境を大切に社会」「仕事と子育てが両立できる社会」「暮らしている人同士の協力や助け合いが盛んな社会」

「安心して子どもを産み育てられる社会」「余暇が増大し、皆が思い思いの楽しみを味わえる社会」「経済的に豊かな社会」「安定した雇用や収入が見込める社会」の11項目。

また、“ならないと思う”でみると、2011年より増加しているのが「仕事と子育てが両立できる社会」「自然や環境を大切にする社会」「いつでも・どこでも世界とつながる情報化社会」の3項目、減少しているのが「高齢者や障がい者にやさしい社会」の1項目。

表V-26. 近未来の社会 [TOTAL <N=1,800>] (%)

《なると思う》		2012	2011	2010
✓	地球温暖化など環境問題がいつそう深刻化した社会	59.8	63.0	62.6
	いつでも・どこでも世界とつながる情報化社会	59.3	62.9	64.3
	不況や失業が慢性化した社会	51.2	55.0	54.3
	循環型社会(資源を効率的に利用するとともに再生産を行い…)	36.2	40.6	42.0
	自然や環境を大切にする社会	31.1	37.3	42.2
	仕事と子育てが両立できる社会	16.3	22.7	23.1
	暮らしている人同士の協力や助け合いが盛んな社会	15.0	18.1	12.9
	安心して子どもを産み育てられる社会	8.7	11.8	12.6
	余暇が増大し、皆が思い思いの楽しみを味わえる社会	4.6	6.2	7.2
	経済的に豊かな社会	2.6	3.8	4.9
	安定した雇用や収入が見込める社会	2.2	4.0	4.0
✓	一人暮らしの高齢者が増えた社会	87.0	88.4	89.3
	高齢化と人口の減少による活力が低下した社会	62.5	65.1	65.8

《ならないと思う》

↖	仕事と子育てが両立できる社会	49.2	44.6	47.2
	自然や環境を大切にする社会	33.0	29.9	32.1
	いつでも・どこでも世界とつながる情報化社会	15.7	11.9	15.8
✓	高齢者や障がい者に優しい社会	45.8	49.3	50.2
↖	一人暮らしの高齢者が増えた社会	4.7	3.6	3.4
✓	道徳や規律・責任が重んじられている社会	50.9	50.4	57.6
	経済的ゆとりがなくても、自分らしい暮らしのできる社会	48.3	49.8	51.8
	災害や犯罪に強い、安全で安心して暮らせる社会	44.0	44.1	52.8
	暮らしている人同士の協力や助け合いが盛んな社会	41.4	41.2	51.7
	地域の問題は、地域の人々が解決に向け行動する社会	38.9	39.4	45.3
	エネルギー不足が深刻化した社会	24.2	25.3	27.1
	外国人と一緒に暮らし、一緒に働く社会	21.6	21.5	25.0
	子どものいない家庭が増えた社会	6.3	7.4	8.5

## 〔環境問題や環境用語の中で関心が高いもの〕

2011年と比較して増加しているのは、「再生可能エネルギー（太陽光発電など）」の1項目のみ、反対に減少しているのが「地球温暖化」「環境汚染」「森林の減少など自然破壊」「産業廃棄物の処理」「ゴミ排出量の増加」をはじめとした13項目。

表V-27. 環境問題や環境用語の中で関心が高いもの (%)

〔TOTAL <N=1,800>〕		2012	2011	2010
↑	再生可能エネルギー(太陽光発電など)	40.1	26.7	-
	地球温暖化	73.8	77.7	82.3
	環境汚染(大気汚染・海洋汚染・土壌汚染など)	54.3	62.3	61.0
	森林の減少など自然破壊	45.0	53.8	59.8
	産業廃棄物の処理	33.1	40.8	42.1
	ゴミ排出量の増加	26.3	37.1	39.6
	資源枯渇などのエネルギー問題	24.3	28.8	29.0
↓	種の絶滅など生態系の破壊	20.9	24.6	29.1
	砂漠化の進行	14.8	22.8	29.0
	温室効果ガス	14.3	18.2	24.7
	CO <sub>2</sub> 排出権取引	7.4	9.8	12.6
	生物多様性	5.2	6.9	9.8
	3R 運動	4.6	8.1	7.3
	スマートグリッド	2.6	3.8	-
	低炭素社会	4.0	5.2	6.4
↓	フードマイレージ	2.9	3.2	4.4
	カーボンニュートラル	1.9	2.7	3.4

## 〔環境問題に対する意識・行動〕

2011年と比較して増加している項目は1つもなく、「地球温暖化は切実な問題だと感じている」「環境問題に対して、個人レベルでも努力すべきだと思う」「次の世代のために、環境問題に取り組むべきだと思う」「環境問題の解決のために、国や地方自治体による法整備や規制が必要」「地球温暖化防止のためなら、多少の不便は我慢できる」をはじめとして、17項目中16項目で減少。



表V-28. 環境問題に対する意識・行動 (％)

[TOTAL <N=1,800>]		2012	2011	2010
	地球温暖化は切実な問題だと感じている	70.4	75.2	75.9
	環境問題に対して、個人レベルでも努力すべきだと思う	55.2	61.7	65.0
	次の世代のために、環境問題に取り組むべきだと思う	46.4	53.8	54.0
	環境問題の解決のために、国や地方自治体による法整備や規制が必要	33.4	42.8	42.4
	地球温暖化防止のためなら、多少の不便は我慢できる	33.1	41.1	37.1
	環境問題の解決のためには、企業や産業による努力が必要だと思う	31.4	40.1	43.5
	環境問題解決のため、国や企業だけでなく、個人レベルでも負担が必要	27.1	34.2	35.1
✓	多少コストがかかっても、環境負荷の少ない商品を選ぶべきだと思う	18.3	24.9	23.8
	技術の進歩によって環境問題は解決に近づけると思う	18.2	21.4	21.9
	個人レベルでいくら工夫をしても、環境問題は解決できないと思う	17.7	23.6	22.5
	環境意識の高い人は、一步進んだ人だと思う	15.0	21.9	23.2
	環境問題の取り組みに積極的な企業の商品を買ったり、投資したい	10.3	16.1	16.5
	エコプロダクトが普及することで、環境問題は解決に近づけると思う	6.6	9.3	11.9
	家庭の中で、環境問題がよく話題にのぼる	6.2	9.2	10.6
	環境保全のための募金やチャリティに参加するようにしている	5.5	7.8	7.6
	環境問題について、普段から積極的に情報を得ている	4.7	8.6	7.3

## 〔環境のためにしていること〕

2011年と比較して、「自動車をハイブリッド自動車や低燃費車などに乗り換える」が増加、「電気をこまめに消している」「冷房や暖房は控えめにしている」「自転車を使うようにしている」「水やお湯を無駄使いしない」「ゴミの減量化を積極的におこなっている」「外出する時には、家電製品のプラグを抜いている」「自家用車はできるだけ使わず、公共交通機関を利用する」の7項目が減少。

表V-29. 環境のためにしていること (％)

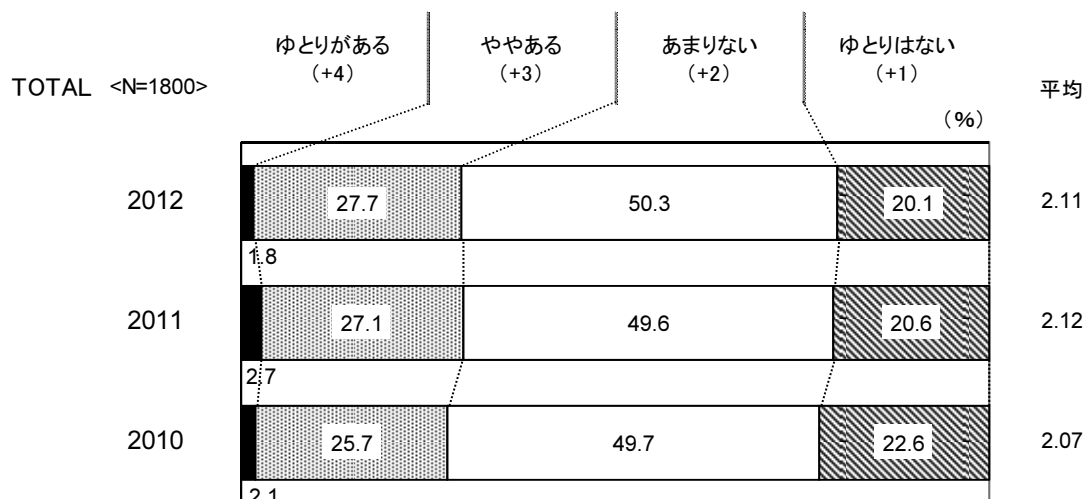
[TOTAL <N=1,800>]		2012	2011	2010
↖	自動車をハイブリッド自動車や低燃費車などに乗り換える	6.5	4.7	5.2
	電気をこまめに消している	64.6	73.6	62.8
	冷房や暖房は控えめにしている	55.8	65.9	52.8
	自転車を使うようにしている	42.6	47.6	-
✓	水やお湯を無駄使いしない	41.7	47.1	46.9
	ゴミの減量化を積極的におこなっている	22.0	26.1	25.7
	外出する時には、家電製品の電源プラグを抜いている	20.7	24.0	18.2
	自家用車はできるだけ使わず、公共交通機関を利用する	17.1	19.8	20.9
↖	電球を取り替える際には、電球型蛍光灯・LED電球を選ぶ	32.4	32.5	26.1
	家電製品を購入する際には、省エネ性能の高いものを選ぶ	37.8	39.4	45.5
✓	ものを選ぶ時は、使い捨てのものは選ばずに長く使えるものを選ぶ	26.0	28.1	32.4
	エネルギー効率のよい給湯器(熱源機)を設置する	5.7	6.1	7.7

## 6. 都市生活者の収入・資産

### 〔経済的ゆとり〕

“ゆとりがある（ゆとりがある＋ややゆとりがある）” “ゆとりはない（あまりゆとりはない＋ゆとりはない）” のいずれも、2011年、2010年との間に有意差はみられない。

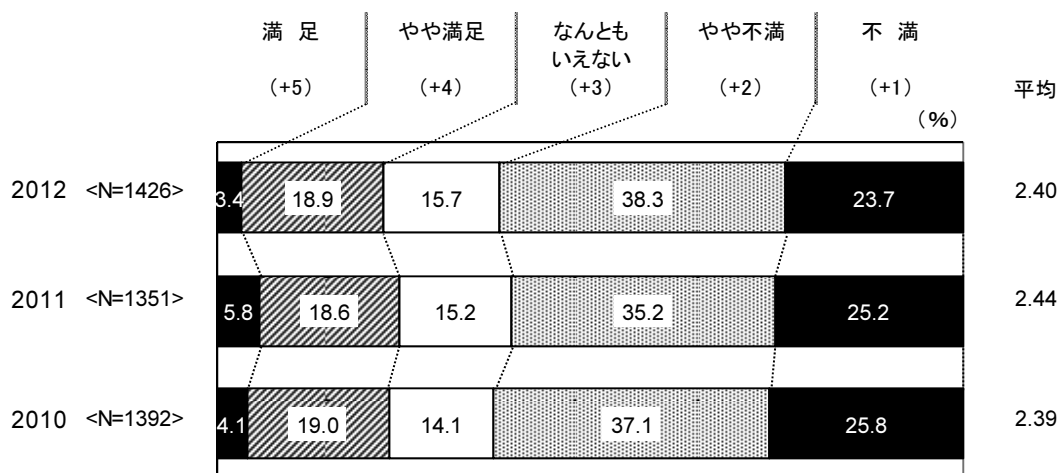
図 V-18. 経済的ゆとり



### 〔収入の満足度〕

“満足＋やや満足” に有意差はみられないが、“満足” に限定してみると 2011年との間に有意差がみられ、2012年では2ポイント減少。

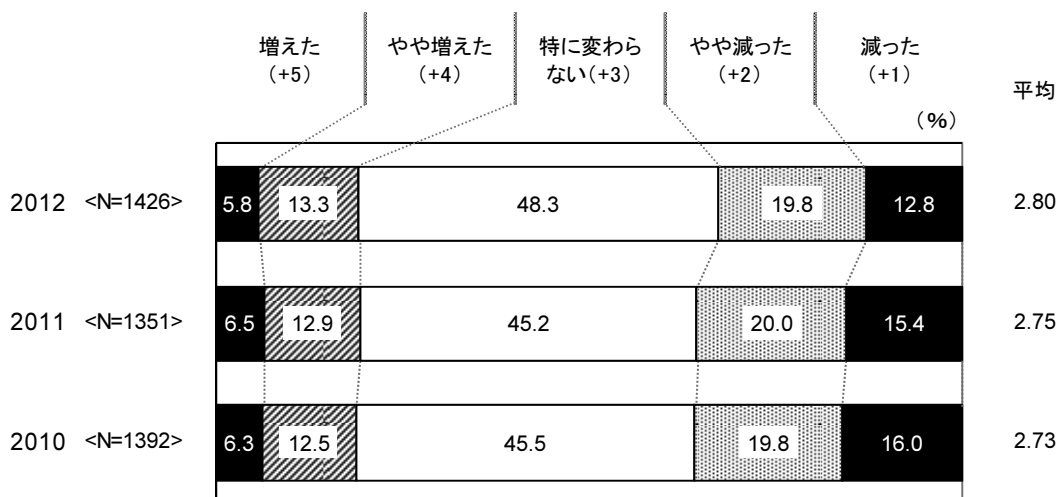
図 V-19. 収入の満足度



[1年前と比較しての収入の増減]

2011年との間には“減った”で有意差がみられ、2011年と比較して2012年では3ポイント減少。

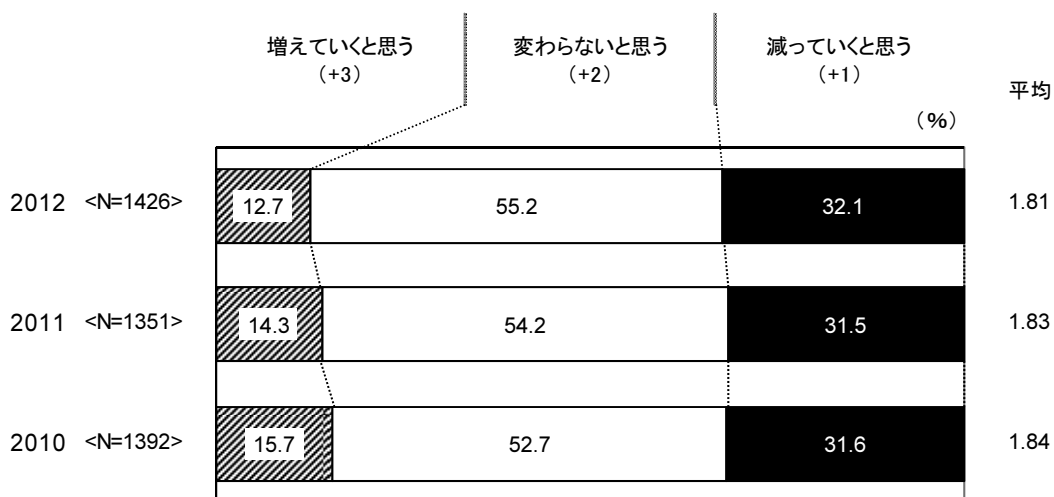
図V-20. 1年前と比較しての収入の増減



[今後の収入の増減]

2011年との間に有意差はみられないが、2010年の“増えていくと思う”との間に有意差がみられ、2012年は2010年より3ポイント減少。

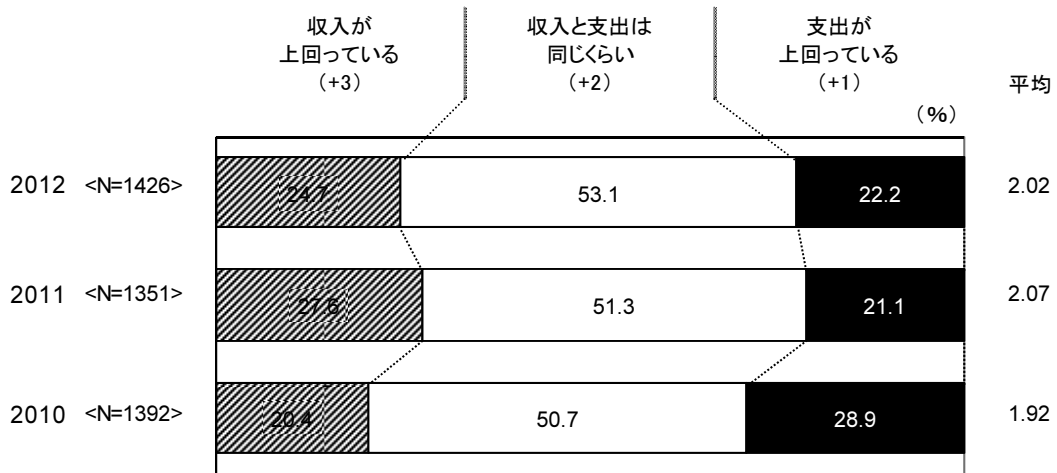
図V-21. 今後の収入の増減



〔収入と支出のバランス〕

2011年との間に有意差はみられないが、2010年の“収入が支出を上回っている”“支出が収入を上回っている”で有意差がみられ、2010年に比較して2012年では“収入が支出を上回っている”が4ポイント増加、“支出が収入を上回っている”が7ポイント減少。

図V-22. 収入と支出のバランス



〔この1～2年で増えた支出項目／減った支出項目〕

この1～2年で増えた支出項目をみると、2011年より増加しているのが、「通信費（携帯電話・インターネットを含む）」「水道光熱費（電気・ガス・水道費）」。

表V-30. この1～2年で増えた支出項目

		(%)		
		2012	2011	2010
↑	通信費(携帯電話・インターネットを含む)	34.5	30.6	33.8
	水道光熱費(電気・ガス・水道費)	20.5	13.4	24.7
↓	食料費(外食費・給食費を含む)	32.9	34.3	37.1
	趣味・娯楽費	16.8	15.6	19.8
	交際費	15.9	17.0	19.2
	自家用車関連費(ガソリン代、保険、駐車場代、車検等を含む)	15.5	15.3	20.0
	家賃・住宅の修繕費(住宅ローンは含まず)	9.8	10.6	14.9
	衣料品・靴・バッグ等の購入費	8.3	8.3	14.1
	交通費(電車・バス代、定期代、タクシー代等)	8.1	9.5	15.2
	家電・インテリア・家事用品等の購入費	6.6	7.8	14.2
	各種ローンの返済費(住宅ローンを含む)	5.8	6.4	10.6
	小遣い(自分、家族、親等のも含む)	5.8	5.2	9.2

<N= 1,426      1,351      1,392 >

反対に、この1～2年で減った支出項目をみると、2011年より増加しているのが、「家電・インテリア・家事用品等の購入費」、減少しているのが「水道光熱費（電気・ガス・水道費）」。

表V-31. この1～2年で減った支出項目 (％)

	2012	2011	2010	
↖	家電・インテリア・家事用品等の購入費	18.9	13.5	21.0
↙	水道光熱費(電気・ガス・水道費)	13.0	17.7	14.7
	衣料品・靴・バッグ等の購入費	24.7	22.7	32.3
	小遣い(自分、家族、親等も含む)	21.2	22.6	30.0
	趣味・娯楽費	19.2	18.3	26.2
	食料費(外食費・給食費を含む)	17.9	18.7	22.4
	交際費	16.2	16.7	23.0
↙	自家用車関連費(ガソリン代、保険、駐車場代、車検等を含む)	7.1	7.4	11.8
	教育費	6.9	6.4	13.0
	交通費(電車・バス代、定期代、タクシー代等)	6.8	5.8	14.8
	保健医療費	6.0	5.6	12.0
	各種ローンの返済費(住宅ローンを含む)	6.0	5.6	8.2
	家賃・住宅の修繕費(住宅ローンは含まず)	4.6	5.0	10.0
<N= 1,426      1,351      1,392 >				

[今後重点的に増やしたい支出項目／今後重点的に減らしたい支出項目]

今後重点的に増やしたい支出項目は、2011年と比較して増加しているのは、「衣料品・靴・バッグ等の購入費」の1項目のみ。

表V-32. 今後重点的に増やしたい支出項目 (％)

	2012	2011	2010	
↖	衣料品・靴・バッグ等の購入費	9.9	6.2	9.9
↖	貯蓄	58.8	59.1	48.3
↙	家電・インテリア・家事用品等の購入費	4.6	5.3	7.1
<N= 1,426      1,351      1,392 >				

反対に、今後重点的に減らしたい支出項目をみると、2011年より増加しているのが「水道光熱費（電気・ガス・水道）」「通信費（携帯電話・インターネットを含む）」の2項目。

表V-33. 今後重点的に減らしたい支出項目 (％)

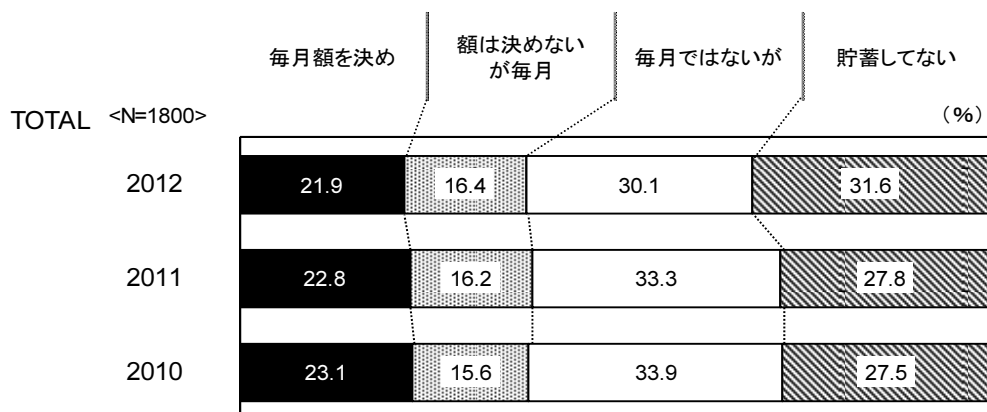
		2012	2011	2010
↑	水道光熱費(電気・ガス・水道費)	37.4	33.1	37.3
	通信費(携帯電話・インターネットを含む)	30.6	25.9	30.5
↓	保健医療費	19.5	18.1	22.9
	自家用車関連費(ガソリン代、保険、駐車場代、車検等を含む)	16.5	18.1	20.8
	家賃・住宅の修繕費(住宅ローンは含まず)	10.5	9.5	13.1
	衣料品・靴・バッグ等の購入費	10.0	11.0	14.4
	交際費	9.7	9.2	13.6
	家電・インテリア・家事用品等の購入費	6.9	8.1	12.0
	交通費(電車・バス代、定期代、タクシー代等)	6.3	8.1	12.3
	趣味・娯楽費	6.1	6.3	9.7
	教育費	4.7	3.3	8.0
	小遣い(自分、家族、親等のも含む)	3.4	3.8	5.8

<N= 1,426 1,351 1,392 >

〔貯蓄〕

2011年と比較して有意差があり、“毎月ではないが貯蓄をしている”が3ポイント減少、“貯蓄はしてない”が4ポイント増加。

図V-23. 貯蓄状況



貯蓄をしている理由をみると、2011年に比較して、「予定外の支出に備えて」「旅行資金」「雇用などの将来不安に備えて」の3項目で増加、「結婚資金」が減少。

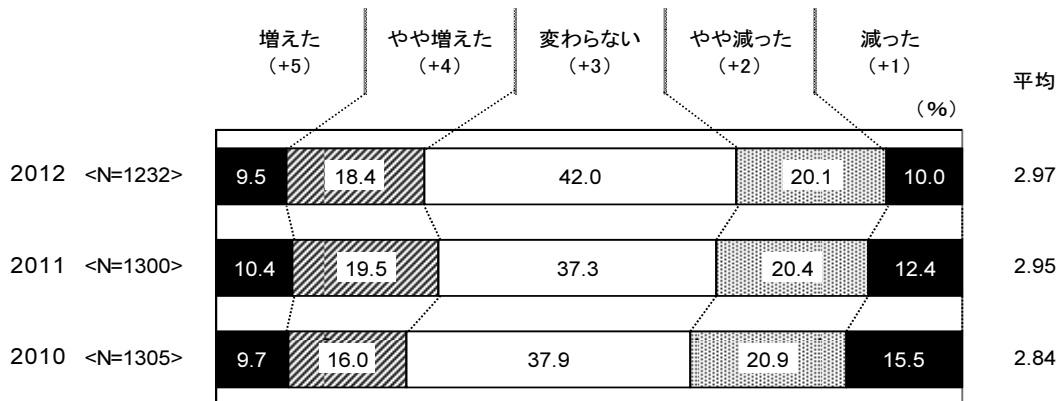
表V-34. 貯蓄理由

		(%)		
		2012	2011	2010
↑	予定外の支出に備えて	54.1	42.4	49.6
	旅行資金	21.8	18.4	18.4
	雇用などの将来不安に備えて	17.5	13.4	19.6
↓	結婚資金	5.4	7.7	6.0
		<N= 1,232	1,300	1,305 >

〔1年前と比較しての貯蓄額の増減〕

2011年と比較して、“増えた（増えた+やや増えた）” “減った（やや減った+減った）” に有意差はみられないが、“変わらない” が5ポイント増加。

図V-24. 1年前と比較しての貯蓄額の増減



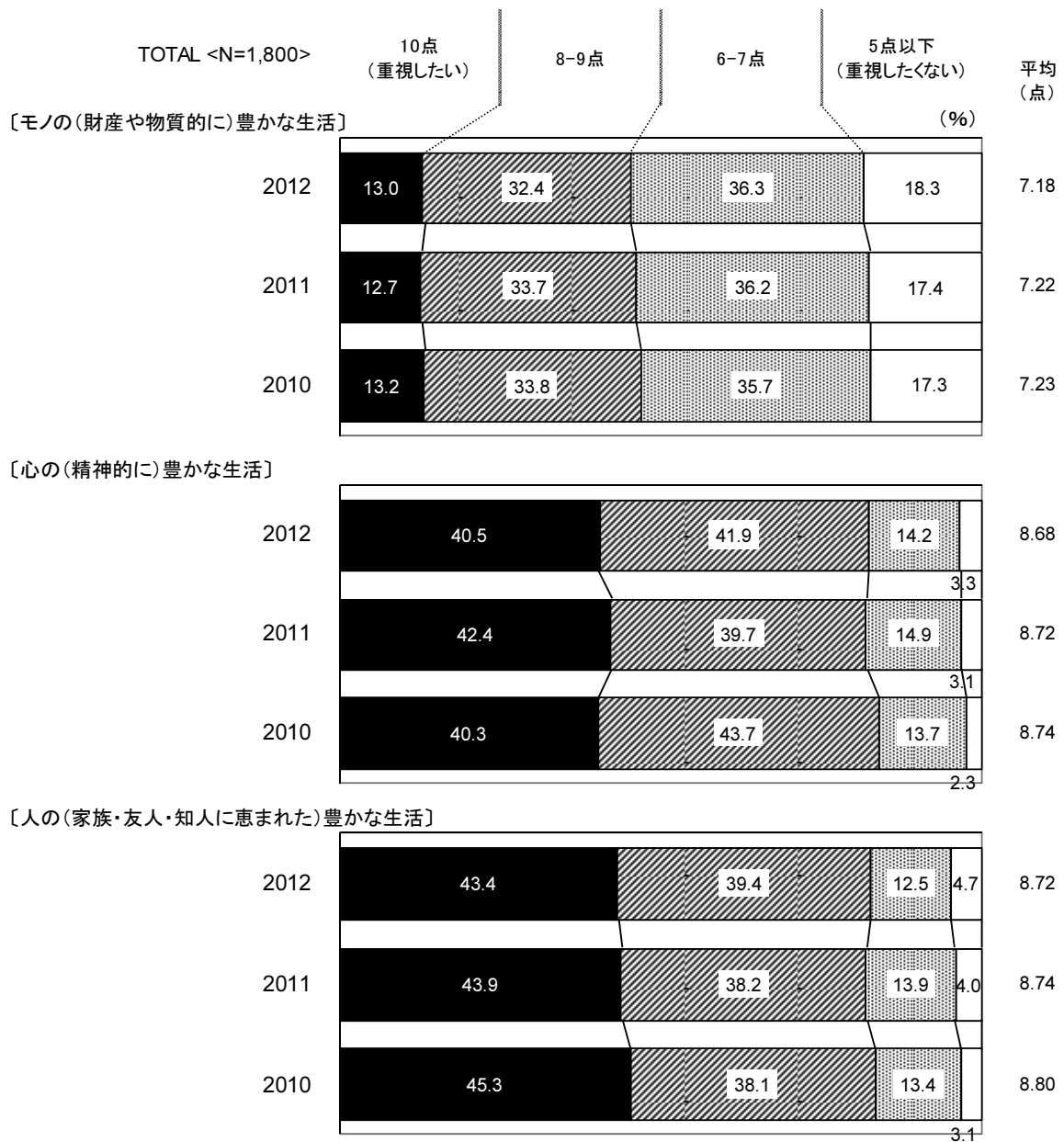
## 7.都市生活者の価値観等

〔「モノ・心・人」を重視したい程度、重視している程度〕

「人」の2012年と2010年の“重視している程度”を除くと、「モノ」「心」「人」それぞれを“重視したい程度”“重視している程度”に有意差はみられない。

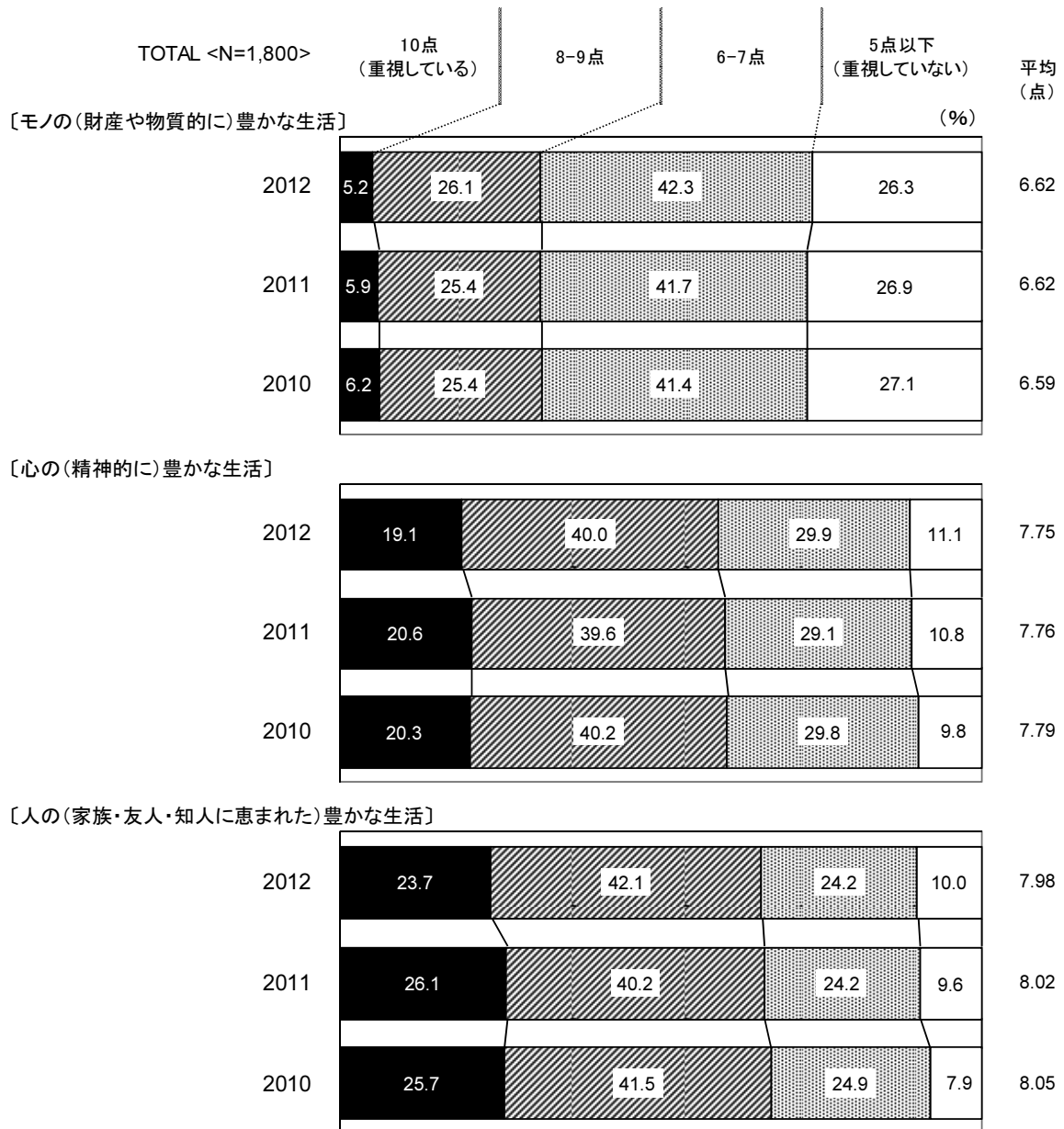
「人」を“重視している程度”の「5点以下（重視していない）」は、2012年と2010年との間に有意差がみられ、2012年は2010年より2ポイント増加。

図V-25. 「モノ・心・人」を重視したい程度





図V-26. 「モノ・心・人」を重視している程度



[よろこびや生きがいを感じていること]

2011年との間に有意差のみられる項目は1つもないが、2010年との間には「教養のための勉強・学習」「家事」の2項目で有意差がみられ、2項目とも2010年より増加。

表V-35. よろこびや生きがいを感じていること (%)

[TOTAL <N=1,800>]		2012	2011	2010
↑	教養のための勉強・学習	18.3	16.4	14.7
	家事	13.4	12.9	10.7

## 〔世界に誇れること〕

2011年より増加しているのが、「食文化の豊かさと多彩さ」「食品の安全性」「健康保険制度（国民皆保険制度）」「国民の慎み深さ」「街なかの清潔感」の5項目、反対に減少しているのが、「温泉文化」「伝統文化・伝統芸能」「世界をリードするエコロジー車の開発」の3項目。

表V-36. 世界に誇れること

(%)

		〔TOTAL <N=1,800>〕		
		2012	2011	2010
↑	食文化の豊かさと多彩さ	40.3	37.0	47.5
	食品の安全性	39.7	30.6	50.8
	健康保険制度(国民皆保険制度)	23.7	20.1	19.0
	国民の慎み深さ	19.9	16.8	-
	街なかの清潔感	18.2	15.6	13.7
↓	温泉文化	42.6	46.6	48.2
	伝統文化・伝統芸能	40.8	44.1	-
	世界をリードするエコロジー車の開発	17.6	20.3	24.4
↑	治安の良さ・犯罪率の低さ	37.9	38.4	34.2
	歴史・文化観光資源	35.3	33.4	32.0
	国民のマナーの良さ	34.0	31.7	19.1
	豊かな自然	25.4	23.4	21.1
↓	豊富な水資源	29.8	28.5	32.9
	先端・高度医療技術	22.7	21.2	25.6
	平和憲法	20.3	19.5	23.8